

1. 社会・治安情勢

(1) ホンジュラス暴力犯罪研究所の正式発表によれば、2013年中における殺人事件は6,757件であり(昨年比415件減少:速報値から下方修正)、人口10万人あたりの殺人発生率は79.0を記録し(昨年比で6.5ポイント減少:速報値から下方修正)、統計上は僅かながら治安改善の兆しがみえるものの、一度に複数名が殺害される事件も連日発生しており、治安現状は依然として厳しい状況が続いている。

(2) エルナンデス大統領は就任直後から治安対策に力を入れており、各種オペレーションを全国展開し、連日、大量の検挙者を出しているが、当国の司法制度の脆弱性、刑務所施設の劣悪な収容状況等、司法当局に関する問題は山積しており、今後は司法プロセスが厳正に機能していくかという点にも注目する必要がある。

2. 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) 殺人や強盗といった凶悪犯罪は依然として高水準で発生しており、国家警察によれば、昨年中、テグシガルパ市民のうち約50万人が強盗被害に遭ったとされており、特に強盗事件が極めて多く発生しているとみられていることから、万が一被害に遭った際は、犯人は絶対に銃を持っているとの認識のうえ、絶対に抵抗しない等の対応をとることが重要である。

(2) 強盗犯人が狙う金品として、現金に次いで携帯電話が多い傾向にあり、発生場所については路上及び公共交通機関(乗り合いのタクシーやバス)内が多く、移動時に際しては特に注意が必要である。

(3) ショッピングモール内のATMや銀行等にて現金を引き出した者を車両等で尾行し、銃器等で脅して現金を奪い取る強盗事件も散発している。同種事件は邦人を含む外国人も被害者となっており、今後も散発する可能性が十分にあることから特に注意を要する。

(4) 近年、犯罪組織による「みかじめ料」の恐喝が深刻な問題となっており、これまでは公共交通機関関係者や個人商店等が対象となっていたが、最近では個人を対象として被害も多発しており、邦人についても対象となる可能性が排除できないことから十分な注意を要する。

(5) 邦人被害事案

特になし

(6) 邦人以外の被害事案

● 1月10日早朝、テグシガルパ市内において、住宅に強盗に入った男が、家人から銃で反撃され死亡した(ロマス・デ・ギハロ地区)

● 1月24日、テグシガルパ市内のダビビエンダ銀行に、客を装った男4人及び障害者を装い車椅子に武器を隠し持った男の計5名が押し入り、現金を奪って車両にて何れかへ逃走した(アラメダ地区:スヤパ通り沿い)

● 2月3日午後、テグシガルパ市内において、警備員に殺害された女性が地中に埋められ

ているのが発見された（アティージョ地区）。

● 2月8日午前、テグシガルパ市内において、前日に同市内で誘拐された男性が殺害され、ビニール袋に詰められているのが発見された（同日、現場付近において2名の男性の他殺体が発見された：ウムヤ地区）。

● 2月14日、サンペドロスーラ市内の飲食店において、警察官の制服を着た5人の男らが、店内で食事の男性を射殺し、車両で逃走した（ロス・アンデス地区）

● 2月24日、テグシガルパ市内において、飲食店で注文品を待っていた男性が、近づいてきた2人の男から銃撃を受け死亡した（カントリークラブ付近）

● 3月4日夜、バジェ県内の飲食店において、食事の男性2名が店内に押し入ってきた強盗犯人から銃撃を受け、1名が死亡、他の1名が重傷を負った（サンロレンソ市）。

3. テロ・爆弾事件発生状況

● 1月7日、サンペドロスーラ刑務所内において、手製爆弾が爆発し、収監されていた3名が負傷した。

● 3月28日、テグシガルパ市南部の住宅内において、航空機を撃墜可能とみられる威力を持つ弾頭2発をはじめ、ビル等を破壊可能とみられる爆発物の原材料となる化学薬品等が大量に押収された（実害なし）。

4. 誘拐・脅迫事件発生状況

日本人被害は無し。

5. 日本企業の安全に関する諸問題

（1）ホンジュラスの対日感情は良好であり、日系企業を対象としたテロの可能性は低いとみられるものの、強盗等の一般犯罪は依然として高水準で発生していることから、同種犯罪に対する防犯対策の強化が必要である。

（2）ホンジュラス北部地域（コルテス県、アトランティダ県、コロン県及びヨロ県等）において犯罪組織の勢力が強まっている情勢であることから、該当地域における業務予定がある場合は、これまで以上に安全対策の強化及び日本大使館及び現地治安当局等から最新の現地治安情報の収集を行うことを勧める。（了）